

福島市小鳥の森通信

しじゅうから

小鳥の森で観察してみよう 136

コカマキリ

分類：カマキリ目 カマキリ科

大きさ：36～63mm

住んでいる場所

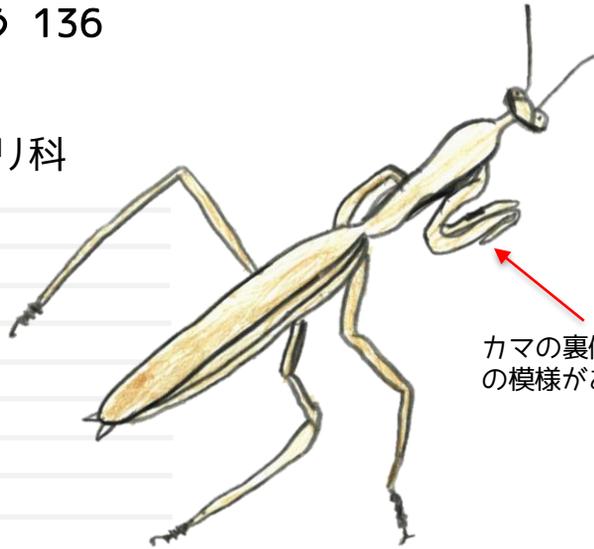
・明るく広い場所

小鳥の森で見られる時期

・9月～11月

小鳥の森で見られる場所

・竹林前広場、ネイチャーセンター周辺



カマの裏側に白と黒の模様がある。

うちだ せな さん (8才) が描いてくれました。

9月 いきもの森予報

秋の鮮やかな花・フシギな花

夏の暑さが少しずつ遠のき始める9月。まだまだセミの鳴き声などは残るものの、秋の気配を感じるようになるでしょう。

秋の始まりに小鳥の森で観察できる鮮やかな花・フシギな特徴の花を紹介します。

色付く前の緑の葉の中でとても目立つピンク色の花はツリフネソウ。やや湿った場所に生えており、草丈は50～80cmほどになります。8月～10月に、帆掛け舟（（ほかけぶね）風を受けて船を進める「帆」が付いた舟）のような形の花を、細い茎の先に釣り（つり）下げたように咲かせます。また、ツリフネソウの花の付け根はクルリと渦のように巻いており、そこに蜜が溜まります。

一方、ギンリョウソウモドキは透明感のある白い花。太めのツクシに似た茎の先に頭を垂れたような花を付けます。この植物は土の中の菌に寄生（ほかの生物から栄養を一方的に取る）して成長するため、光合成（太陽の光を使って栄養を作り出すこと）をしません。光合成に必要な緑色の葉緑体を持つ必要が無いため真っ白なのです。お化けのようなフシギな植物ですね。



ツリフネソウ



ギンリョウソウモドキ

夏の昆虫たち

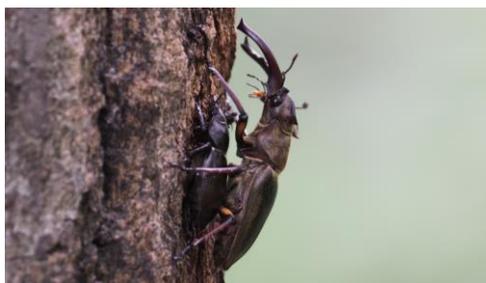
広い青空にソフトクリームのようにむくむくと盛り上がった入道雲。7月や8月は晴れの日が多く、気温が35℃を超える猛暑日が続きました。小鳥の森では、7月28日（金）に39.6℃を記録し、外で活動することをためらうほどに。

夏の盛りを迎えた小鳥の森では、クワガタムシの仲間やカブトムシが活発に活動していました。クワガタムシ・カブトムシと言えば夏を代表する昆虫ですが、実はあまり暑さに強くなく、主に活動するのは夕暮れから朝方の涼しい時間帯です。朝早くに園内を散策すると、コナラやクヌギの樹液の出ている場所にたくさん集まる姿を観察することができました。エサである樹液の出ている場所は食事だけでなく、オスとメスが出会う婚活場でもあります。ノコギリクワガタのオスがメスの上に乗ってほかのオスに奪われないうようにする「メイトガード」と呼ばれる姿も見られました。

樹液場には他にもチョウやハチなども訪れており、夏の昆虫たちでにぎやかでした。



ノコギリクワガタ

ミヤマクワガタ
(メイトガード)

イベント報告



夜間昆虫観察



昆虫標本作り

夜間昆虫観察会と昆虫標本作り

8月5日（土）に夜間昆虫観察会、8月6日（日）に昆虫標本作りを行いました。

夜間昆虫観察会では、まず日没時間に合わせてライトトラップを設置。光に寄ってくる昆虫が集まるまでの間、かんさつ広場や散策路を歩いて夜の探検をしました。戻ってからライトトラップを見てみると、大型のガのオオミズアオやアブラゼミ、ニイニゼミ、カミキリムシなど様々な昆虫が確認できました。子どもたちはライトトラップで観察できる昆虫をまとめた写真と見比べながら楽しそうに昆虫と触れ合っていました。

翌日の昆虫標本作りでは、カブトムシの展足（てんそく）昆虫の脚などをマチ針などで整えて、作った後に図鑑などと見比べやすくすることをしました。細かく慣れない作業ながらも、親子で相談したり何回も微調整をしながらカブトムシの脚を展足台に固定していました。完成した標本を前にした子どもたちの顔には達成感がありました。

*小鳥の森通信「しじゅうから」はホームページでカラー版をご覧になれます。

*園内の環境放射線量の詳細はホームページをご覧ください。

福島市小鳥の森（ネイチャーセンター） 開館時間：午前8時30分～午後5時

《入場無料》休館日：毎週月曜日（祝祭日の時はその翌日）

〒960-8202 福島市山口字宮脇98 Tel：024-531-8411 fax：024-534-8800

小鳥の森のホームページ・・・<http://www.f-kotorinomori.org/>

小鳥の森通信「しじゅうから」2023年9月号№447 / 企画・発行：福島市小鳥の森 / NPO法人野鳥の会ふくしま

